

～ 新1年生の体験入学・入学説明会 ～

校長 知念 義光

先日、本校に来年度入学予定の児童12名（男子6名、女子6名）が、体験入学をしました。元気いっぱいの子どもたちで、入学がとても楽しみです。保護者の方々には入学にあたっての説明会を実施しました。私からは、ある本に書いてあった「親たちのNGワード・NG行動」について紹介しました。

1 「この前だってそうでしょう」

例えば、子どもが勉強を始めないときに、過去の失敗を持ち出す。今さらどうしようもない過去の話がされるとやる気がくじける。叱るときは「短く、後をひかずに」、今のことだけ叱って、終わり。

2 「うちの子、ダメだから」

他の保護者との会話で、単なる挨拶・社交辞令としてつかっているが、子どもは、そうなんだと真剣に受け取ってしまう。子どもは大人の会話に非常に敏感にアンテナを張っているものです。大人になっても残る。

3 「ばかじゃないの？」

「ばか」ということばをつかった時点で、言われた子は、一生勉強好きにはなれない。一回でおしまい。「ジ・エンド」 その後も勉強はするが、絶対に楽しんで勉強するようにはならない。

4 「(お父さん) に叱られるわよ」

自分が主体となって問題に直視することから逃げている。子育てのあり方としてすでに問題。子どもは、おかあさんはずるいと思われている。子どもはお母さんの規準を知りたい。「ダメなものはダメ」とはっきり言ってもらった方が安心する。「靴で上がるなんて、私は許さない」「宿題しないなんて、私は許さない」

5 「それじゃ 今日だけよ」・・・宿題をさぼろうとしたとき。

スーパーNGワード：1回でも許された子は、何かにつけ楽な方へ行く。やらなければならないことは、必ずさせる。さぼりたい気持ちを変に受け止めずに、「宿題はやるものよ」と冷静に言う。親の規準を示す。「やらないんですよ～」と高学年になっても宿題をさせきらない親御さんもいる。さぼり癖がついた子には、学年の変わり目や誕生日などの節目からリセットする。「あなたは、今まで宿題をやったり、やらなかったりしたけど、今日からきちんとするのよ。」と約束させる。以上、参考にしていただくとありがたいです。